

## アマゾンの「電子書籍端末キンドル」を買うかどうか

10月7日の日経の夕刊に、アマゾンが「電子書籍端末キンドル」を19日に発売することになり、その予約注文を受け付けていることが出ていました。それ以来、私はこれを注文するかどうかについて、大袈裟に言えば、悩んでいます。

キンドルに関する説明は、日本のamazon.co.jpのウェブサイトには出ていませんが、そこからアメリカのamazon.comへのリンクがあり、そこでの英文の説明を見ることができます。

キンドルの正式な名称は「Kindle Wireless Reading Device」で、それによると、発注は、アメリカのアマゾン社を通して、Amazon Digital Servicesという別会社に対して行い、この会社が現物を直接送ってくるようです。

Amazon.comで見ると、この端末は、携帯電話を大きくしたようなもので、ディスプレイの対角線の長さが約15センチ、厚さ8ミリ強、重さ約280グラムです。日本向けの機種は279ドルですから、約2万5千円です。この機種はアメリカをはじめ多数の国で使えるということになっています。もっと大型のものもありますが、それはアメリカの国内専用です。

この端末は、3G wirelessという通信方式でどこかにあるデータセンターと繋がっており、1冊の書籍を60秒以内でダウンロードすることができます。また、1,500冊

の書籍を格納することができるので、ちょっとした図書室相当のものを持ち歩くことが可能になるわけです。

ダウンロードのための費用は、書籍に依存するようですが、ベストセラーになっているものなどについては9.99ドルなので、900円ぐらいです。つまり、本自体を買うよりも安いということです。

ある本のダウンロードをするかどうかを決める前に、最初の幾つかの章を見ることができるようです。これは非常に良いことだと思います。また、英々辞書が内蔵されており、意味の分からない単語をクリックすると、その意味が表示されます。この機能はとくに便利だと思います。通常の辞書や電子辞書を参照しながら英文の本を読むことは楽ではなく、読むスピードが上がりません。キンドルのこの機能を使って、英文の本を速く読んでみたいものです。

現在データセンターには35万冊の電子化された書籍があります。これ以外に、新聞や雑誌もダウンロードすることができます。

上記の宣伝文を読むと、是非買ってみたいという気になるのですが、買ってはみたけれども困ったな、という事態もあると思われれます。日本では誰も未だ持っていないものなので、誰かに尋ねるというわけにはいきません。それで、フロリダ大学の平田聡さんにメールを出して、何か知っているか尋ねてみました。彼からの返事に

---

よると、彼自身はキンドルを持ってはいないが、空港などで使っている人を見かけたことはあるそうで、今回日本で発売される機種については、ネットに出ている評判は良いとのことでした。

情報流通革命が急速に進行している現在、キンドルのような装置とその裏にある巨大なデータシステムが出てきたことに、私は遂にここまで来たかという感じがします。それだけに、最先端のこの端末に強い魅力を感じています。平田さんからの返事を見て、やはり買おうかなと思い始めているところです。

今のところ取扱説明書は英文のものしかないでしょうから、使いこなすまでには時間がかかるかもしれませんが、使えるようになるると、良い「玩具」になり過ぎて、他のことができなくなりかねないなと思っています。（おわり）